

# ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

大阪大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

## 〈総論〉

昨年度のようにほとんどの受験生が解けないような問題は出題されなかった。どの問題もはじめから手が出ないということはなく、比較的取り組みやすい問題であった。

①はヒントがあるので、(1)の方針は立てやすい。ただし、途中式に $\log_2 3$ が含まれており解きにくかったのではないか。(2)では計算力が必要で文系には少し難しかった。②は是非とも完答したい。③は小問に分かれてはいないが、方針は基本的にひとつしかないために取り組みやすかった。この問題で完答できると心強い。

## 〈特記事項・トピックス〉

②は理系との共通問題であった。これで4年連続してベクトルが共通問題として出題されており、昨年と本年は文系を基準に考えても典型的で取り組みやすい問題であった。

## 〈合格への学習対策〉

毎年のように微分・積分に関する問題が出題されており、さらに標準的・典型的な問題が多いため演習を積み重ねれば確実に得点源になるはずである。その際に、自分の力で最後まで計算して答えを合わせることを心掛けてほしい。ただし、どの分野が出題されても対応できるように幅広く演習して、苦手な分野を克服する必要がある。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
①	記述	II・B	対数関数 数列	隣接3項間の漸化式で定められた数列の一般項を求める問題である。(1)で方針は示されているが対数の知識も必要である。(2)を最後まで求めるにはかなりの計算力が要求される。	やや難
②	記述	C	空間ベクトル	4点が同一平面上にある条件を用いる典型的な問題であり、最小値の計算も比較的簡単である。	標準
③	記述	II	微分法 積分法	定積分を用いて表された関数の最小値を求める問題である。特に難しい計算はなく、 $a$ の値によって場合分けが必要ではあるが、解いていると自然と気づくのではないかと。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。